

ヒルフェ通信(2月号)

❖ そっと寄り添いやさしくサポート ❖

「公益社団法人成年後見支援センター
ヒルフェ」は高齢者、精神障がい者、知的
障がい者等の権利の擁護及び福祉の
増進に寄与することを目的として、東京都
行政書士会が設立した法人です。



◆瑞穂町社協主催セミナー「寸劇で楽しく学ぶ成年後見制度の入門講座」に講師派遣しました

令和7年12月13日(土)、瑞穂町郷土資料館 けやき館 多目的室にて、瑞穂町社会福祉協議会(権利擁護センターみずほ)主催のセミナー「寸劇で楽しく学ぶ 成年後見制度の入門講座～花子さんのみちしるべ～」が開催され、ヒルフェから講師を派遣いたしました。当日は、地域の高齢者の方々を中心に福祉関係者の皆さまにもご参加いただき、参加者46名の盛況となりました。

本セミナーでは、成年後見制度を「難しい制度の説明」から入るのではなく、身近な暮らしの場面に置き換え、寸劇を交えて理解を深めていただく構成としました。寸劇「花子さんのみちしるべ」では、日常生活の中で起こり得る“困りごと”を題材に、本人の思いを大切にしながら支援につなげていく流れを描き、会場からは笑いもこぼれるなど、終始あたたかな雰囲気で行いました。

続く解説パートでは、法定後見と任意後見の違い、利用までの大まかな流れ、相談のタイミングなどを、具体例を示しながら整理しました。あわせて、将来に備えて「自分の希望を言葉にしておくこと」の大切さにも触れ、参加者の皆さまがご自身の生活に引き寄せて考えられるよう、ポイントを絞って説明しました。

質疑応答では、「家族が遠方にいる場合はどうなるか」「どんなときに申立てが必要か」「費用や手続の期間感」など、実務に近い質問も多く寄せられ、成年後見制度への関心の高さがうかがえました。終了後にも個別に相談のお声がけをいただき、地域で“顔の見える”場を持つことの意義を改めて感じる機会となりました。



ヒルフェでは、今後も自治体・社会福祉協議会等と連携し、成年後見制度をより身近に感じていただける普及啓発に取り組んでまいります。
(副理事長 佐々木正彦)

◆令和8年新年賀詞交歓会のご報告

令和8年1月8日(木)に、京王プラザホテル「コンコードボールルーム」において、東京都行政書士会・東京行政書士政治連盟・東京行政書士協同組合・公益社団法人成年後見支援センターヒルフェ共催の行政書士法制定75周年記念式典・令和8年新年賀詞交歓会が開催されました。

賀詞交歓会に先立って例年のように東京都知事感謝状授与式・記念品贈呈式が開催されました。

賀詞交歓会冒頭では、宮本会長より、行政書士法改正について、これからの私たち行政書士が研鑽に励み、業務を行うことが肝要だとのお話がありました。また、議員の方からは、これからますます高齢化が進む中で、成年後見制度や終活等に関する支援が必要となるので、行政書士の活躍を期待するというお話もありました。

ヒルフェからご案内した来賓の皆様にも多数ご出席賜りましたが、今回も第三者委員会の委員長である弁護士の遠藤英嗣先生には齊藤理事長と共に、鏡開きにもご登壇いただき、「ヨイショ」の掛け声で鏡を開いていただきました。

乾杯後は歓談の場となり、ヒルフェのテーブルでも来賓の皆様と今後の活動における連携など、有意義な意見交換などが和やかな雰囲気の中に行われ、皆様、笑顔でお帰りいただきました。

